

矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol.1



発行日：平成 29 年 6 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 39 回山部会WGを開催しました！

5月19日(金)～20(土)に第39回山部会WGが恵那市岩村振興事務所にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドラインに関して、今年度の活動内容を話し合いました。



日時：平成 29 年 5 月 19 日（金）～20 日（土）
場所：恵那市岩村振興事務所 会議室
参加者：22 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集では、平成 27 年度までの 3 ヶ年に矢作川流域市町村から山村漁村の振興に貢献する 64 団体の取材を行い、3 冊の事例集を発行しました。昨年度は、『その後いかがお過ごしですか？プロジェクト』を立ち上げ、初年度に取材を行った団体を対象に再取材し、レポートにまとめました。さらに、その成果を発表する場として、4月に事例集交流会を行いました。流域を支える若者の活動を間近で見ることができ、とても有意義なイベントでした。新年度にあたり、昨年度の活動の成果を報告するとともに、今年度の活動計画について意見交換をします。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、昨年度に引き続き、以下の2項目の実現に向けて活動したいと考えています。

- ① 矢作川感謝祭（仮称）：
【開催日】9月2日（土） 【対象】矢作川流域全体（1,000人規模） 【山としての参加形態】木づかい推進
- ② 矢作川流域林業担い手ヒヤリング（仮称）：
【実施時期】6月以降 【対象】根羽・恵南・豊田・岡崎森林組合の作業班および林業事業体社員（「緑の雇用」の支援制度を終えた就業4年目以上55歳未満）または他産業への離脱者

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の2点について情報共有します。

- ① 流域市村の間伐面積の推移
流域市村の林業の動向を把握するため、関係団体への情報収集を継続します。
- ② 森づくりガイドラインの策定に向けて
中規模製材工場の稼働、豊田市と岡崎市が森づくりの新たな構想を打ち出す状況の中で、以下の項目案で取りまとめを行いたいと思います。
1) 矢作川流域圏の森づくりについての基本的な考え方、2) 皆伐一斉造林についての考え方、3) 搬出間伐についての考え方、4) 伐り置き間伐についての考え方、5) 渓流沿いの人工林についての考え方、6) 尾根筋の人工林についての考え方、7) 広葉二次林についての考え方、8) その他

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、以下の3点について情報共有と意見交換をします。

- ① スギダラキャラバンの年間スケジュール
- ② 「大好きな本、皆に読んでもらいたい本をもって集まろう。木づかいライブ、木のブックボックスによる速攻『まちかどライブラリー』プロジェクト」
- ③ 木づかいガイドラインの策定に向けて

5. その他（愛知県から三河湾大感謝祭への参加依頼について）

第4回三河湾大感謝祭が以下の内容・日程で開催されることになりました。出展ブースとしての出し物のほか、パネル展示やシンポジウムでの発表なども可能です。出展ブースについては、根羽村森林組合にご参加いただきたいと思います。

【目的】多くの人々に三河湾に関心を持ってもらうこと（三河湾再生を担う団体や上流域で活動する団体との交流がテーマ）
【日時】平成 29 年 10 月 29 日（日） 午前 10 時～午後 4 時 【場所】蒲郡市民会館 【主催】愛知県

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・今年度は、『その後いかがお過ごしですか？プロジェクト』として、平成26年度に取材を行った団体を対象に再取材を行いたいと考えている。(洲崎)
 - ▶ 3年前と大きく変わらない団体に対して、同じ趣旨のプロジェクトを継続するには少々無理がある。(丹羽)
- ・再取材を行う団体と新たに取材を行う団体をミックスしてはどうか。(浅田)
 - ▶ メインは新規取材団体として、その中に再取材を交えるハイブリットタイプが良いと思われる。(蔵治)
- ・萩野、敷島、和合など自治区を取材することも可能である。(山本)
 - ▶ 自治区といえば、恵那だけでも串原や上矢作などがあげられ面白いと思う。(丹羽)
- ・7月までに新たにに取り上げたい個人・団体を挙げてほしい。(洲崎)

●矢作川流域圏山村ミーティングについて

《矢作川感謝祭(仮称)》

- ・今年は豊田市のみを対象とするのではなく、流域全体の祭にすることになった。(丹羽)
- ・山は具体的にどんな形で参加するのか。(山本)
 - ▶ 今年は木づかいをメインとする。今後は、ふだん市民が見ることのない山師、杣師のカッコ良さを示すイベント、アマチュアの楽しさを流域に伝えるイベントにしたい。(丹羽)

《矢作川流域圏林業担い手ヒヤリング(仮称)》

- ・流域の森林整備は、ほぼ100%が森林組合および事業体の現場作業班が担っている。その若手現場作業員の多くは他産業からの志の高い転職、1ターン者である。かつては新人教育と定着が大きな課題であったが、現在は中堅技術者の他産業への離脱が深刻な課題となっている。このことを今回のテーマとしたい。(丹羽)
- ・我が国は林業をとりまく教育制度が整備されていない。そのため、目標林型といってもピンとこない。(丹羽)
 - ▶ 昨今、我が国には林業大学校というのが増えている。ただ、まだ愛知県にはなく、安城農林や猿投農林高等学校がその役目を担っている。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ・策定項目の中に広葉二次林が含まれるのは、それを育ててきた知識や技術が消えているからか。(丹羽)
 - ▶ そのとおりで、広葉二次林を継承することが大事と考えるからだ。流域の中で、広葉二次林を管理する事例があれば紹介してほしい。(蔵治)
- ・山林を手放した人たちの土地をどう集めるか、森林を管理する上での規模、低コスト化などをどこに含めるのか。また、補助金に関しては、上下流の関係性を生態系サービスの観点から整理する必要があると思う。(城田)
 - ▶ 行政的立場ではなく、あくまで流域圏にとってふさわしい立場で整理したいと考えている。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・知らないうちに今村さんに感化されて、今では木づかいにはまっている。組手什は渋谷の東急ハンズで取り扱いを始めた。色々な場面で木づかいが動き始めていると感じる。(丹羽)
 - ▶ 木の分野は無尽蔵で、日本の中でもすごく展望のある分野だと思っている。(山本)
- ・年間の木づかいライブ・スギダラキャラバンに以下の日程を追加してほしい。(丹羽、服部、洲崎)
【矢作川感謝祭(豊田大橋東側河川敷)】9月2日(土) 【三河湾大感謝祭(蒲郡市民会館)】10月29日(日)
【いなかとまちの文化祭(豊田市駅前北街区)】11月25日(土)



◆恵那市におけるフィールドワーク

- ①花白温泉
(案内人：丹羽健司さん)
間伐材の利活用に関して、地産地消の仕組みを学んだ。
- ②茅の宿とみだ
(案内人：立松昌朗さん)
古民家の再生方法、都市と農村の人々の繋がりを学んだ。



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WGは、6月23日(金)豊田市(足助)にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 指導官 小林、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。

